



共同アトリエ。思いっきり汚してもいい空間。
既存にあまり手を加えない、ざっくりとした
プランのリノベーションだからこそラフに使える。



個室 & 共同アトリエ



共同キッチン
水廻りと同じくキッチンの位置は固定である



通路 & アトリエ



プランの1例。個室を狭くし、共同のLDKとアトリエを設けたプランを模型で表現した。



共同リビング



シェア居住用に水廻りのみ大幅に改修
共有の浴室はフロアごとに男女を分ける



共同ダイニング

Self made sharehouse

自分たちで、欲しい部屋を好きなように作る。そんな住み方を提案する。

柱だけがたくさんある空間を提供し、その柱と柱の間に居住者が自ら壁を作る。
個室やアトリエを自分たちの好きなように間取っていく。
NYのダンボ地区のアーティストが自発的に作り出すような、ラフで遊びのある建築空間。

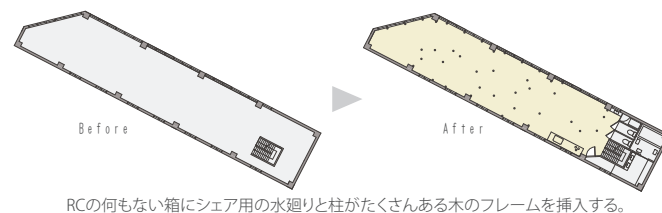
敷地は名古屋の寂れた繊維問屋街。
そこにあるオフィスビルの空きフロアをアトリエ兼シェアハウスに転用する。
まだ現役な既存の窓や壁、構造体はほとんどいじらずに、シェア居住用の水廻りと、柱がたくさんある木のフレームだけ新たに設ける。

居住者が心地良い空間や使い方を生み出せるように、柱と柱の間隔、柱の配置は徹底的にスタディし、
巧妙に仕組まれている。
その柱による余白が「広くて自由に使える空間」や「小さく囲まれた個人的な空間」になるように。

決して、自由にフレキシブルな空間を作りたいのではない。
リノベーションだからこそラフに、面白く使えるような、遊びのある空間を作りたいのだ。

柱と柱とが生み出す空間の余白。
名前の決められていない用途の余白。
これは余白の建築であり、住み手が完成させる未完の建築である。

● リノベーション前後

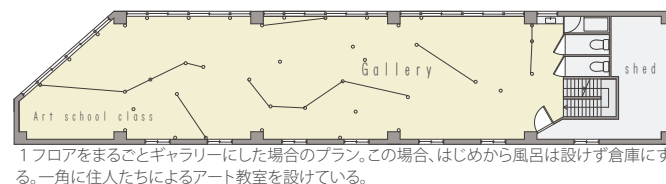


RCの何もない箱にシェア用の水廻りと柱がたくさんある木のフレームを挿入する。

● 間取りのプラン例



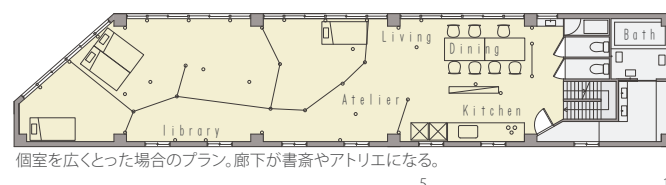
模型でも表現しているプラン。6人が住み、個室を小さめにしている。なお、これらのプランはあくまでもスタディ上の想定であり、実際には居住者が自発的に間取りを決める。



1フロアをまるごとギャラリーにした場合のプラン。この場合、はじめから風呂は設けず倉庫にする。一角に住人たちによるアート教室を設けている。



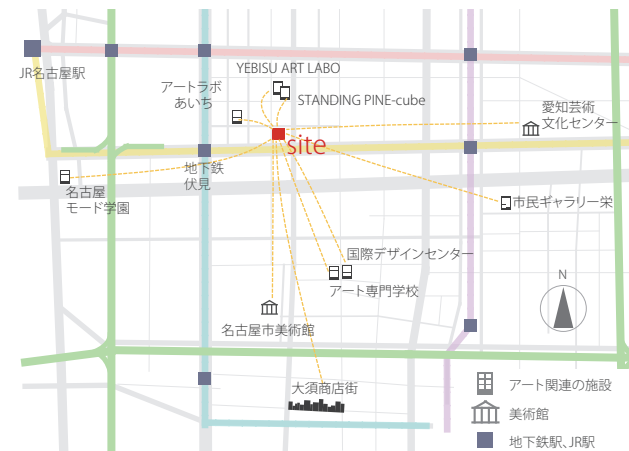
4人を想定したプラン。共同の書斎を設けている。



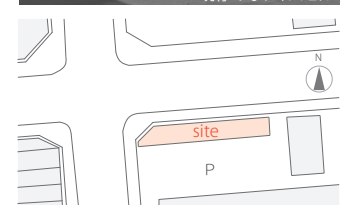
個室を広くとった場合のプラン。廊下が書斎やアトリエになる。



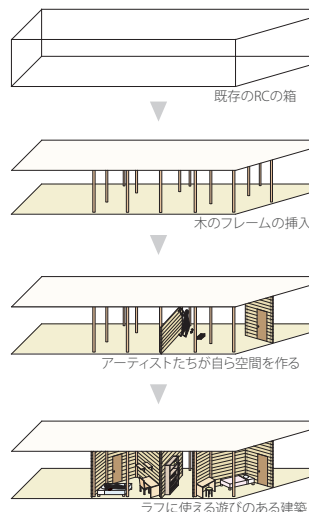
● 計画対象地



敷地のある長者町は、2010年に開催されたあいちトリエンナーレの会場のひとつで、四方をアーティストに関わる施設に囲まれるような立地。
主な居住者もアーティストやアートを学ぶ学生を想定している。対象となるオフィスビルは4階建てで、現在1階のみが飲食店として使用されている。「作って暮らす」という新しい住み方の環境にマッチしたこのビルの2〜4階をリノベーションしている。



● ダイアグラム



● 壁のディテール



● 柱の使い方

